

R5年間時間外労働時間 朝日小：月平均 28.9時間 昨年度比 -8.9時間
朝日中：月平均 31.1時間 昨年度比 -1.8時間

総勤務時間縮減のための取組について

●町の目標

- ① 時間外在校等時間：5年度比各自10～25%の縮減
(R5実績に応じて適切に設定)
- ② 休暇日数：年3日以上増加
- ③ 時間外在校等時間が月45時間を超える者をなくす



●朝日中学校の目標

- ① 時間外在校等時間：令和5年度比 各自 25 %の縮減
- ② 時間外在校等時間が年360時間を超える者 5 人
- ③ 時間外在校等時間が月45時間を超える者 2 人
- ④ 1人当たりの月平均時間外在校等時間 30 時間以下
- ⑤ 1人当たりの年間休暇取得日数 10 日以上

すべての公立学校で統一して取り組む項目

●町の目標

- 朝日町の小中学校で統一する取組
- ① 定時退校日：月に1日以上
：定時退校職員割合80%以上
- ② 部活動休養日：部活動ガイドライン遵守
- ③ 会議時間の短縮：60分以内の終了
* 終了時間を決めて実施 達成率80%以上
* 会議回数厳選



●朝日中学校の目標

- 各学校の取組
- ① 定時退校日：月に 1 日 定時退校職員割合 90 %以上
- ② 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 95 %以上
- ③ 放課後に開催して60分以内に終了した会議 85 %以上
- ④ 学校独自の取組：働き方改革(勤務時間縮減)への意識改革

☆ 町教育委員会で取り組むこと

- ◆実施状況の把握と学校への指導・助言
- ◆学校の事務負担軽減 送付文書の削減 調査・報告の精選、方法の見直し
- ◆会議・研修の見直し 会議等, 開始・終了時間の見直し 長期休業中の会議, 研修の見直し
- ◆効果ある取組の発信 教頭・事務担当者会議等で検証し、課題と改善策等を発信
- ◆部活動指導協力員、校務支援員、スクールサポートスタッフの配置
- ◆統合型校務支援システムの活用に向けての取組

☆ 朝日中学校独自の取組

- ◆校務支援員を有効に活用し、業務の軽減を行う。
- ◆朝日中学校部活動ガイドラインを策定し、部活動休養日(1週間のうち2日、内1日は土日)や活動時間(平日は2時間以内、休日 は3時間以内)を設定し、勤務時間縮減を行う。
- ◆部活動は複数顧問とし業務の軽減を行う。また、部活動指導協力員や外部指導者(吹奏楽部)を活用し、業務の軽減を行う。
- ◆時間外労働時間の削減に係る意識の啓発として、管理職や主任による退校の声掛けを行う。4～9月は19:00までに、10～3月は18:00までに退勤する。
- ◆月に1回の定時退校日以外に、比較的部活動の少ない水曜日に定時退校日を設定し、他の4日で見通しを持って業務にあたることを意識させる。
- ◆特休、年休取得の推進(休みやすい病休者を出さない職場づくり) ◆定期的な会議(研修、生徒指導、特別支援教育)を時間割に組み込むことにより、放課後の会議削減を行う。
- ◆職員会議での提案事項を1週間前に事前回覧を行い、職員会議の時間短縮を図る。
- ◆職員会議では、協議事項のみの提案とし、提案事項の要点のみを簡潔に提案することで、時間短縮を図る。
- ◆職員会議や全体研修会などドキュワークスを活用し、ペーパーレス会議を行う。
- ◆長期休業中に会議・研修等を実施しない期間を周知し、「休校日」の設定を行う。